

雲南市国民健康保険保健事業実施計画
(第1期データヘルス計画)
第3期雲南市特定健康診査等実施計画

中間評価
令和2年度



令和3年3月



雲南市

目 次

第1章 計画の基本的事項

1. 計画の背景	1
2. 計画期間	1
3. 目的・目標	1
(1) 目的	
(2) 長期的な目標	
(3) 短期的な目標	
4. 実施体制・関係者連携	2
5. 中間評価の趣旨	2

第2章 第1期データヘルス計画の中間評価

1. 被保険者の健康水準の状況について	3
(1) 健康寿命の延伸	
(2) 国民健康保険医療費の状況	

第3章 保健事業の中間評価と見直し

1. 保健事業の中間評価	4
(1) 生活習慣病予防対策	
(2) 特定健診受診率向上対策	
(3) 特定保健指導実施率向上対策	
(4) 生活習慣病重症化予防対策	
(5) ジェネリック医薬品利用促進	
2. 令和3年度から令和5年度までの事業の方向性について	7
(1) 1次予防事業	
(2) 2次予防事業	
(3) 3次予防事業	
(4) その他事業	

参考資料

1. 評価・見直しの整理表	9
---------------	---

第1章 計画の基本的事項

1. 計画の背景

近年、特定健康診査（以下「特定健診」という。）の実施や診療報酬明細書等（以下「レセプト等」という。）の電子化の進展、国保データベースシステム（以下「KDB システム」という。）、健康医療情報等分析システム（以下「Focus システム」という。）等の整備により、保険者が健康や医療に関する情報を活用して被保険者の健康課題の分析、保健事業の評価等を行うための基盤の整備が進んでいる。

こうした中、「日本再興戦略」（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）においても、「市町村国保に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取り組みを求める。」とされ、各保険者はレセプト等を活用した保健事業を推進することとされた。

雲南市国民健康保険においては、保健事業実施指針に基づき、被保険者の健康維持増進を図るために、データヘルス計画を策定のうえ、生活習慣病の重症化予防事業等の保健事業を実施し、評価を行った。

2. 計画期間

計画期間は、平成 30 年度から令和 5 年度までの 6 年間とする。

また、データヘルス計画は、「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21（第 2 次）」に示された基本方針を踏まえるとともに、「第二次健康長寿しまね推進計画（島根県健康増進計画）」や「第 3 次雲南市健康増進実施計画（以下「健康増進実施計画」という。）」で用いた評価指標を用いるなど、それぞれの計画と整合性を図る。

データヘルス計画	特定健康診査実施計画
第 1 期（平成 30～令和 5 年度）	第 3 期（平成 30～令和 5 年度）
—	第 2 期（平成 25～平成 29 年度）
—	第 1 期（平成 20～平成 24 年度）

3. 目的・目標

本計画における目的・目標を次のとおり設定している。

(1) 目的

高血圧、脂質異常症、糖尿病、メタボリックシンドローム等を予防し、脳血管疾患、糖尿病性腎症、虚血性心疾患の発症を防ぐ。

(2) 長期的な目標

- ・脳血管疾患、虚血性心疾患の年齢調整死亡率を減らす。
- ・糖尿病性腎症の発症を減らす。
- ・国民健康保険一人当たり医療費の上昇を抑制する。

(3) 短期的な目標

- ・ 特定健診受診率、特定保健指導実施率を上げる。
- ・ 脳血管疾患、糖尿病性腎症の血管変化における共通のリスクとなる、高血圧、脂質異常症、糖尿病、メタボリックシンドローム等を減らす。

4. 実施体制・関係者連携

国民健康保険部局（市民環境部市民生活課）と関係部局（健康福祉部健康推進課、健康づくり政策課、長寿障がい福祉課、保健医療介護連携室）が策定・実施する。

策定体制は、国保部局と関係部局の課長で構成する雲南市データヘルス計画策定会議、担当で構成する作業部会とする。

雲南市国民健康保険運営協議会等で被保険者の意見を計画等に反映させ、保健医療対策の推進及び計画の実効性を高めるため、医師会、歯科医師会、薬剤師会などと協働・連携する体制を整備し、特定健診の実施とその結果や健康課題について共有化を図る。

また、データヘルス計画策定や計画に基づく事業の評価並びに中間見直しに関しては、特定健診結果、レセプト情報、KDB システム、Focus システムなどを分析活用する。

5. 中間評価の趣旨

本計画では、優先的に解決すべき健康課題を把握し、その課題整理に基づき必要な個別保健事業を実施した。中間年度にあたる令和 2 年度においては、平成 30 年度から実施した事業の評価と令和 3 年度から 5 年度の目標と個別保健事業の見直しを行う。

第2章 第1期データヘルス計画の中間評価

1. 被保険者の健康水準の状況について

(1) 健康寿命の延伸

雲南市の65歳平均自立期間は、平成27年男性18.63、女性21.58から、平成29年には男性18.65、女性21.35となった。男女とも大きな変化はなかった。

(2) 国民健康保険医療費の状況

雲南市国民健康保険の一人当たり医療費は増加傾向にあり、平成28年度は458,934円であったが、令和元年度は489,932円と増加した。県内順位は19市町村中7～8位と順位を下げているものの、県平均より高い値にある。

第3章 保健事業の中間評価と見直し

1. 保健事業の中間評価

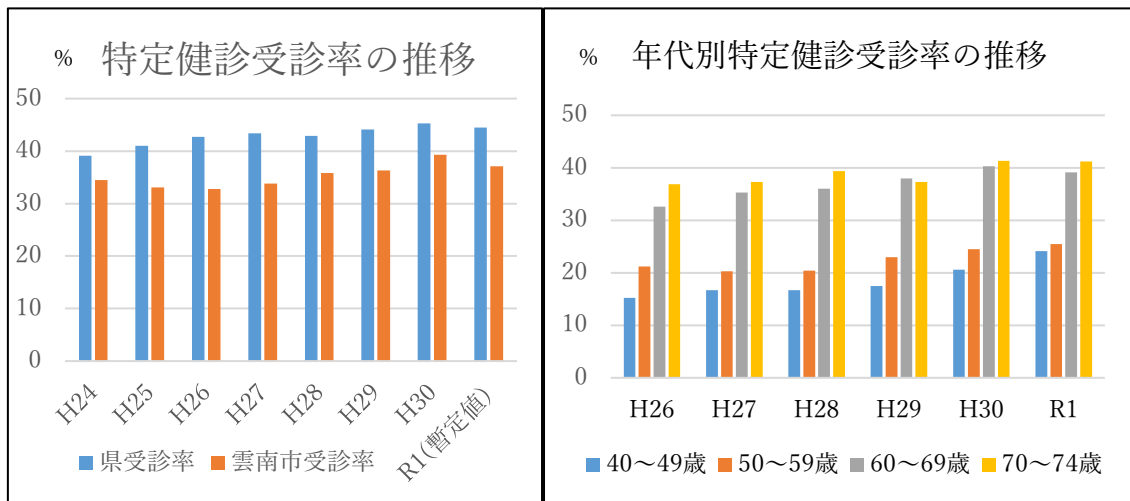
(1) 生活習慣病予防対策

目的	糖尿病、高血圧、脂質異常症等について、病態説明、食事や運動及び口腔などの生活改善につながる指導を行い、生活習慣病の発症を予防する。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防教室は、特定保健指導対象者の30%以上の参加を目指す。 健康教室や健康相談を市民の10%へ実施することを目指す。 		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診事後フォロー「まめうん講座」の開催 →令和元年度に、きらりと輝く75歳を目指す「きらり☆エイジング75教室」に再編 雲南市立病院「健診事後フォローアップ教室」へつなぐ 		
評価	平成30年度	令和元年度	令和2年度（R3.1月時点）
	<ul style="list-style-type: none"> まめうん講座特定保健指導対象者参加率：5.2% 健康教室、健康相談を市民の10.6%に実施【達成】 	<ul style="list-style-type: none"> きらり☆エイジング75教室特定保健指導参加率：0% 健康教室健康相談参加率：10.78% 	<ul style="list-style-type: none"> きらり☆エイジング75特定保健指導対象者参加率：5%（1人/20人） 健康教室健康相談：5.58%
	<p>コロナ禍により、緊急事態宣言が全国に発出されている時期と市内発生時期の健康教育・健康相談を中止した。宣言解除後、市内発生終了後は、感染対策に係る基準を明確にしたうえで、脳卒中・高血圧・歯科・栄養について啓発を行った。</p> <p>地域自主組織と連携し、市の健康課題の周知や脳卒中予防・高血圧対策をテーマに啓発を行った。</p> <p>保健医療介護連携室において、テーマを設定し出前健康教育を実施した。</p> <p>令和元年度は、国保保健事業において、きらり☆エイジング75教室を実施、運動・食生活・口腔ケアなどの行動について改善がみられた。</p>		

(2) 特定健診受診率向上対策

目的	生活習慣病を早期発見し、生活改善を図り、早期治療に結び付けることで、重症化を予防する。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診実施率 60%（40歳代の実施率 50%） 精密検査未受診者 20%減少 	<ul style="list-style-type: none"> 3年以上の継続未受診者数 20%減少 継続受診者 80% 	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 受診勧奨 健診結果情報提供事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある健診、受診しやすい体制づくり 精密検査受診の徹底 	

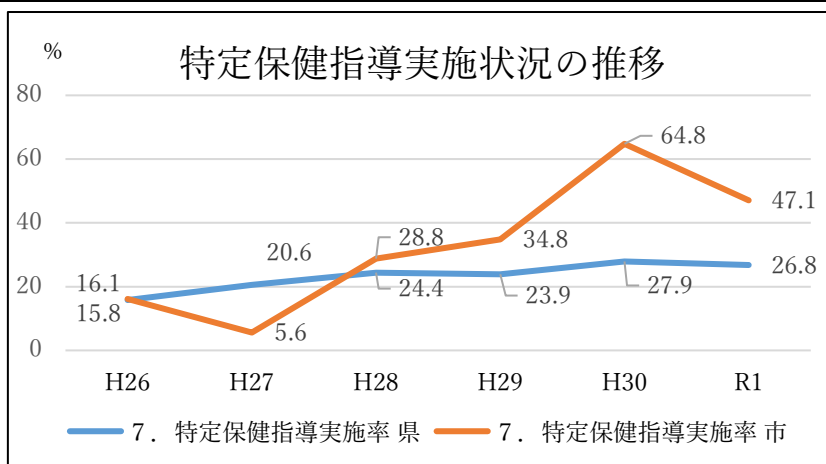
	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (R3.1月時点)
	特定健診実施率	38.6% 【未達成】	38.7%	18.29%
	(40歳代の受診率)	(20.6%) 【未達成】	(24.1%)	(男性 8.8%、女性
	継続受診者	55.5% 【未達成】	57.7%	5.6%)
	精密検査未受診者	30% 【未達成】	34.8%	
評価	<p>特定健診実施率は、県よりも低い状況ではあるが、年々上昇してきている。コロナ禍により、緊急事態宣言が全国に発出されている時期と市内発生時期の集団特定健診を延期し、島根大学による健康調査を中止した。宣言解除後、市内発生終結後は、感染対策に係る基準を明確にしたうえで再開できた。AIを活用した受診率向上対策に取り組み、集団健診はコロナ禍の影響を受け6割弱にとどまったが個別健診は好調。市内医療機関の中には既に前年度を上回る件数に上っている。</p> <p>事業所からの健診結果の情報提供の仕組みづくりの検討に至らなかった。</p> <p>4月1日国保加入者に対して、受診券を送付できていなかったため、4月1日異動の国保加入者に対し受診券をオンライン発行し対象者に送付した。</p>			



(3) 特定保健指導実施率向上対策

目的	脳血管疾患（主に脳梗塞）や虚血性心疾患（主に心筋梗塞）等の発症リスクが高い特定保健指導対象者に対し指導を行い、生活改善を図ることで、病気を早期のうちに防ぐ。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導実施率 45% ・特定保健指導初回面接実施率 60%
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導の必要性の周知 ・委託医療機関との連携 ・集団特定健診当日の特定保健指導の実施（令和2年度コロナ禍により中止）

	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (R3.1月時点)
評価	特定保健指導の終了率	64.8%【達成】	47.1% (暫定値)	0%
	初回面接実施率	65.3%【達成】	60.54%	16.0%
	<p>集団特定健診会場において管理栄養士並び保健師による分割実施や、一部委託している雲南市立病院において自院で行った特定健診当日の初回面接実施などにより、特定保健指導実施率が向上し、目標を達成した。</p> <p>平成30年度から地区集団健診当日に初回面接を実施し高い実施率となったが、令和元年度末からコロナ禍の影響を受け実施率が大幅に低下した。</p>			



(4) 生活習慣病重症化予防対策

目的	<p>高血圧、脂質異常症等のハイリスク者の重症化予防に努め、虚血性心疾患、脳血管疾患の発症を抑制し、要介護状態へ移行させない。</p> <p>高血糖、腎機能低下等のハイリスク者の重症化予防に努め、人工透析へ移行させない。</p>		
目標	<p>・ 集団特定健診でのハイリスク者への保健指導の実施率 100%</p>		
事業内容	<p>・ 集団特定健診受診者や個別特定健診受診者へのアプローチ (令和2年度コロナ禍により集団健診会場の指導を中止)</p> <p>・ 糖尿病・慢性腎臓病の重症化予防体制の強化</p>		
評価	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (R3.1月時点)
	フォロー率 100%【達成】	100%	100%
<p>糖尿病合併症からくる慢性腎臓病の重症化について、医師を交えた連絡会を設定するよう準備を進めたがコロナ禍により停止している。</p>			

(5) ジェネリック医薬品利用促進

目的	ジェネリック医薬品の使用促進を図るとともに、医療費の削減につなげる。		
目標	・ジェネリック医薬品普及率 80%以上		
事業内容	・被保険者への差額通知（年4回）を送付する ・ジェネリック医薬品希望カードの配布		
評価	平成30年度	令和元年度	令和2年度（R3.1月時点）
	・普及率の実績	・普及率の実績	・普及率の実績
	9月：84.61% 【達成】	9月：86.65% 【達成】	9月：86.57% 【達成】
	10月：84.13% 【達成】	10月：86.80% 【達成】	10月：87.59% 【達成】
	11月：86.01% 【達成】	11月：87.45% 【達成】	11月：87.45% 【達成】
	12月：85.77% 【達成】	12月：87.26% 【達成】	
	年々普及率は上がってきており、12月実績で目標の80%を超えてはいるが、今後、常に80%を超えるよう、更に啓発活動を強化する必要がある。		

2. 令和3年度から令和5年度までの事業の方向性について

(1) 1次予防事業

①生活習慣病予防対策

引き続き、地域活動において出前講座等を積極的に展開し、減塩行動を促す高血圧対策を行う。

新たに、情報の届けづらい（無関心層）へあらゆる媒体を活用した啓発、自然に健康になれる環境への働きかけなどを行う。

(2) 2次予防事業

①特定健診受診率向上対策

AIを活用した個別通知、医療機関から診療情報提供を受ける事業など、未受診者対策を強化するとともに、雲南医師会をはじめ医療機関との連携を推進する。感染症対策に配慮した集団健診を継続し、島根大学の健康調査を活用し健康課題の検討を行う。

40歳代50歳代の継続未受診者対策として、インセンティブを付与したが効果がみられなかったため、インセンティブ事業と電話等による受診勧奨を終了する。

②特定保健指導実施率向上対策

集団特定健診動機づけ支援は雲南市役所保健師による分割実施を継続し実施率を維持する。

雲南市立病院へ引き続き積極的支援と雲南市立病院で特定健診を受けた者の動機づけ支援を委託し、特定保健指導階層が改善する者を増やす。

特定保健指導階層が改善した者に対するインセンティブ付与を継続する。

(3) 3次予防事業

①生活習慣病重症化予防対策

糖尿病性腎症患者数は減少しているものの、糖尿病一人当たり医療費、糖尿病合併症医療費が増加し目標の達成が難しい。糖尿病性腎症による新規人工透析者数は増えていないが、後期高齢者医療加入者の新規透析導入者が減らない。集団健診受診者のうち、糖尿病ハイリスク者に対する取組を行うため、実態把握を行う。

(4) その他事業

①ジェネリック医薬品利用促進

対象者全員に100%差額通知を送付し、ジェネリック普及率も目標を達成した。引き続き丁寧な啓発と医療機関、薬局との連携を強化し、利用促進を図る取り組みを継続する。

参考資料

1. 評価・見直しの整理表

雲南市国民健康保険「第1期データヘルス計画」の評価・見直しの整理表

データヘルス計画全体の指標の評価

指標	目標値	ベース ライン (H28)	H29 年度	H30 年度	R元 年度	評価
国民健康保険一人当たり医療費の上昇	抑制する	458,934円	466,779円	475,071円	489,932円	C
脳血管疾患年齢調整死亡率(全年齢)	抑制する	男性 28.7 女性 21.2	男性 36.0 女性 12.9	-	-	d
虚血性心疾患年齢調整死亡率(全年齢)	抑制する	男性 13.1 女性 3.5	男性 10.3 女性 10.7	-	-	d
糖尿病性腎症の発症	抑制する	-	380人	362人	326人	a

上記の目標を達するための個別指標の評価

< 指標 >	目標値	ベース ライン (H28)	H29 年度	H30 年度	R元 年度	評価
まめうん講座 きらり☆エイジング75						
特定保健指導対象者の参加率	30%以上	-	8.0%	5.2%	0.0%	c

< 指標 >	目標値	ベース ライン (H28)	H29 年度	H30 年度	R元 年度	評価
健康課題に沿った戦略的健康づくり						
市民参加率	10%	7.6%	8.1%	10.6%	10.78%	a

評価 a: 改善している b: 変わらない c: 悪化している d: 評価困難

a*: 改善しているが最終評価までに目標達成が危ぶまれる

< 指標 > 特定健診受診率向上対策	目標値	ベース ライン (H28)	H29 年度	H30 年度	R元 年度	評価
受診率	60%	35.8%	36.3%	38.6%	38.7%	a*
40歳代受診率	50%	16.7%	18%	20.6%	24.1%	a*
3年以上継続未受診者 率	20%減少	56.2%	54.0%	52.4%	51.0%	a*
3年連続継続受診者率	80%	55.9%	56.5%	55.5%	57.7%	a*
精密検査未受診者率	20%減少	43.5%	12.97%	30%	34.8%	a*

< 指標 > 生活習慣病重症化予防対策	目標値	ベース ライン (H28)	H29 年度	H30 年度	R元 年度	評価
糖尿病一人当たり医療 費	37,000円	18,806円	21,252円	20,799円	21,174円	a
糖尿病合併症一人当た り医療費	153,000円	82,845円	115,489円	109,365円	126,136円	a
糖尿病腎症患者数	減らす	393人	380人	362人	326人	a

< 指標 > 生活習慣病重症化予防対策	目標値	ベース ライン (H28)	H29 年度	H30 年度	R1 年度	評価
新規人工透析患者数 (国保)	-	0人	7人	5人	3人	a
新規人工透析患者数 (参考：後期高齢)	-	12人	19人	14人	11人	b

評価 a：改善している b：変わらない c：悪化している d：評価困難

a*：改善しているが最終評価までに目標達成が危ぶまれる

データヘルス計画全体の目標

《国民健康保険一人当たり医療費の上昇／目標値：抑制する》			
達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	最終目標値
特定健診や生活習慣病予防対策の取組、ジェネリック医薬品の普及促進を行い、医療費の抑制を図る。	国保人口の高齢化。	一人当たり医療費を比較し、取り組みの検討を行う。	一人当たり国民健康保険医療費 489,000 円以下
《脳血管疾患年齢調整死亡率(全年齢) / 目標値：抑制する》			
達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	最終目標値
-	脳卒中は死亡に至らない軽度で要介護原因疾患になるものは増えている印象。失語症、高次脳機能障害、認知症は介護側から困難事例や自立支援事例であがってくる。	地区担当制による健康づくり活動の Do(保健指導対象者の明確化、効率的効果的な保健指導、保健指標の評価)を明確にし、地区担当保健師による地区活動を強化する。高血圧対策減塩に加え適正飲酒対策を行う。	脳血管疾患年齢調整死亡率(全年齢) 男性 28.7 以下 女性 21.2 以下
《虚血性心疾患年齢調整死亡率(全年齢) / 目標値：抑制する》			
達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	最終目標値
男性の喫煙低下、毎日飲酒の低下。	女性の生活習慣が悪化傾向。	-	虚血性心疾患年齢調整死亡率(全年齢) 男性 13.1 以下 女性 3.5 以下

《糖尿病性腎症の発症／目標値：抑制する》			
達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	最終目標値
<p>地区担当保健師による地区活動を展開した。</p> <p>雲南圏域糖尿病・CKDフォロー体制の運用によるきめ細かい電話、訪問による受診結果の確認と指導を実施した。医師会との連携を図った。</p>	-	<p>後期高齢医療の人工透析が減らず糖尿病以外の慢性腎疾患が多いことから、雲南圏域糖尿病・CKDフォロー体制について医師会への周知を強化する。</p> <p>糖尿病等対策連絡会新設し、医師会、専門医、保健所との連携を強化する。</p>	慢性腎症 326人以下

上記の目標を達するための個別保健事業

《まめうん講座 きらり☆エイジング 75／特定保健指導対象者の参加率》			
成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
-	対象者には個別に勧誘・通知をするものの、参加拒否。	きらり☆エイジング 75 教室はポピュレーションアプローチの教室とし、特定保健指導対象者はフォローアップ教室へつなげる。	フォローアップ教室の特定保健指導対象者参加率 20%
《健康課題に沿った戦略的健康づくり／市民参加率》			
成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
地区担当制が浸透、地域自主組織との協働が進んだ。	-	継続実施する。	全市民に対する健康教育参加率 10%維持

《特定健診受診率向上対策／受診率》			
成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
-	継続未受診が減らない。	A I 活用した受診勧奨。	特定健診実施率 45%
《特定健診受診率向上対策／40歳代受診率》			
成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
国保加入時の受診勧奨。 40歳代受診勧奨。障がい者施設と連携し 集団健診での受診を支援した。	-	継続実施する。	40歳代 特定健診受診率 30%
《特定健診受診率向上対策／3年以上継続未受診者率》			
成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
-	インセンティブに反応なかった。	インセンティブ事業を終了する。	-
《特定保健指導実施率向上対策／実施率》			
成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
集団健診会場で初回面接を行い、分割実施。委託機関との細 めな情報共有を行った。	-	集団健診当日の分割実施の継続。	特定保健指導 実施率 45%
《生活習慣病重症化予防対策／CKDフォロー該当者への講演会・個別相談会への参加率》			
成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値

-	対象者が曖昧でターゲットを絞った講義の内容にならなかった。	ターゲットを明確にする。重症化予防は個別性が高いため、「CKD・糖尿病検討会」において医療機関と方向性を共有し、CKD・糖尿病の個別支援ができる仕組みづくりの検討を図る。	-
≪生活習慣病重症化予防対策／新規人工透析患者数（国保）≫			
成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
CKD対象者へ電話・訪問により生活指導を行ったことにより、新規人工透析導入を食い止めることができた。	-	雲南圏域糖尿病・CKDフォロー体制の運用を継続する。	新規人工透析導入者数3人以下

雲南市国民健康保険保健事業実施計画（第1期データヘルス計画）
第3期雲南市特定健康診査等実施計画

計画期間：平成30年度～令和5年度

中間評価：令和2年度

発行 島根県雲南市

〒699-1392 島根県雲南市木次町里方521番地1

市民環境部 市民生活課 電話：0854-40-1031

健康福祉部 保健医療介護連携室 電話：0854-40-1095